



西栗倉小だより

令和5年2月1日 NO. 10

<http://www.es-nishiwakura.jp/index.html>

3学期がスタート！

新年が充実した幸多き年になりますように。

1月10日（火）始業式を迎え、うれしく感じています。3学期はまとめの学期。子どもたちには、「目標を持ち、なりたい自分になるよう努力すること」と常々伝えています。学校では、「自信」をもって、「チャレンジ」し、人や知識そして夢や未来と「つながる」よう教育活動の充実に努力します。保護者の皆様、地域の皆様に感謝を申し上げ、本年も引き続きご支援とご協力をお願いいたします。



大雪！ 学校がすっぽり雪景色

毎年恒例の干支写真。卯（うさぎ）は跳ねる。飛躍する動物の象徴です。目標に向かって力強くチャレンジする年ですよ、と伝えました。記事は以前の活動もありますが、子どもの姿が伝わるよう今後も努めます。



スキー教室は2月3日（金）に延期しました。次号でお知らせします。

一月二五日、二六日を臨時休校とするほど、大雪となりました。これは、二五日の朝のグラウンド。手前の小山はタイヤ跳び。右中央に朝礼台がちらりとみえます。短期間でみるみる景色が変わっていきましました。

学校教育目標

「ふるさとを愛し 心豊かにたくましく自ら学ぶ 児童の育成」

めざす子ども像

- かんがえる子（自ら考え行動する子）
- やさしい子（思いやりがあり、助け合う子）
- がんばる子（最後までやりぬく子）

遠くと交流 2年

11月25日(金)



「遠くの学校と交流しよう」県教育委員会が相手の学校を紹介する、『「遠く」と「Talk」』事業に2年生が参加しました。準備では、改めて自分たちの身近で紹介したいことを考えました。若杉天然林など、再度行って見て、伝えたい内容をまとめていきました。初めて画面がつながる前の緊張感とつながった時の笑顔が印象的でした。



西あわくら小のばしょ

岡山県の北東端（ほくとうたん）にあります。

相手は倉敷西小学校。美観地区にある学校です。「スキー教室があるの?」「みんな滑れるの?」と西栗倉小の紹介に驚いたり、関心をもって歓声が上がったりと、こちらの2年生もとてもうれしそうでした。

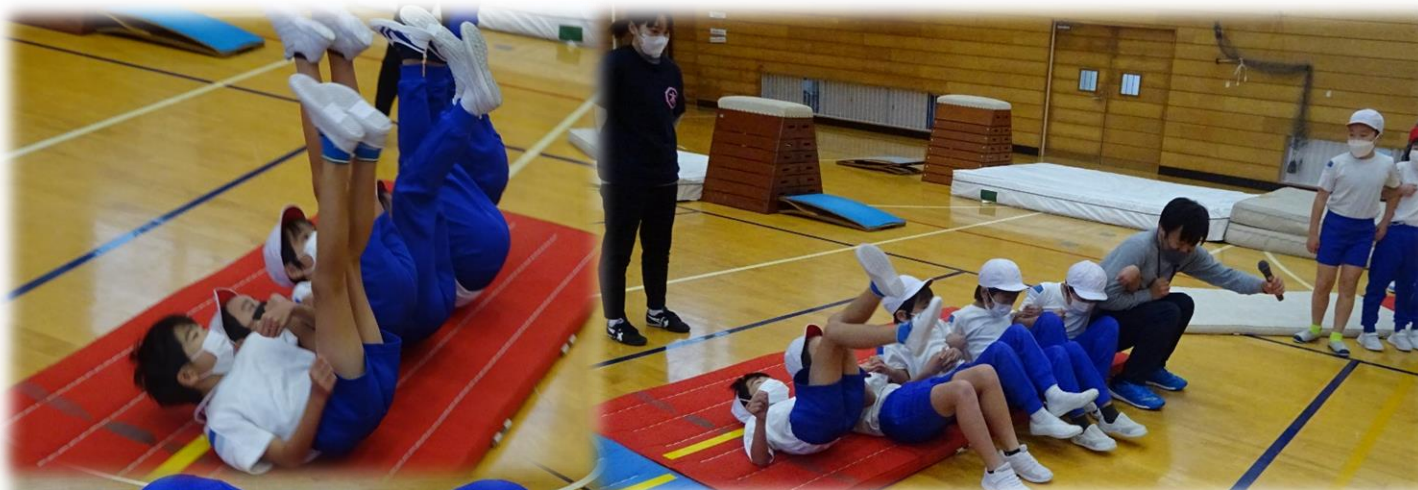
将来、子どもたちは様々な人と関わり、協力することになるでしょう。「つながり」の力を育むよい機会でした。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



マット跳び箱運動

12月1・8日(木)



夏の水泳に続き、マット跳び箱運動で専門指導者に教えていただきます。美作大学の木谷講師と3人の学生による2日間、全学年での授業の様子です。

「けがをしないこと、安全が第一ですよ」からスタートし、気持ちよく身体が動く感覚やペア、グループでの活動を生かして進められました。子どもたちも使っているタブレットを活用して、映像で自分の動きを確認することも体験しました。



「西栗倉小の子どもたちは、とても技能が高いですね。そして、怖がらずに挑戦する。」そうした感想を講師の方、県教委の方からいただきました。そして、よい写真がとれたと送っていただきました。

学校ではわかった、できた自信。やってみようというチャレンジの機会をつくります。そうした中に、粘り強く向き合う強さを引き出したいです。



五感トレーニング

12月8(木)



野菜を五感で感じ、クイズを作ってみる活動に4年生がチャレンジしています。

左は作ったクイズをタブレットで出題しています。自分たちで感じたこと、ふしぎなことをクイズで発信することで他の人の見方・考え方も学ぶことになります。



2 飢餓をゼロに



3 すべての人に健康と福祉を



11 住み続けられるまちづくりを



給食の時間には、あわくら米米倶楽部さんの玄米ごはん
で全校での五感トレーニングです。すでに「食育だより」
で子どもたちの感想を紹介しています。

テレビで「食レポ上手ですね」と出てくると、言葉に表
すのが難しいと感じてしまいます。

学校は「食レポ」ではありません。感じたままを感じた
言葉に置き換えてみる。ねらいは、食を通して五感を使う
こと。また、観察を通して、ふしぎだと感じるきっかけを
作ることです。食育「ふるさと元気給食」での取組です。

クッキーの値段 5年

12月14日(水)



西粟倉産の米粉とちみつを使った商品開発に取り組む5年生。3度の試作を通して、レシピまで完成し、次の段階へ進んでいます。

まず、教育コーディネーターとして、学校の伴走者Nestの今井さんから、価格決定の決め方を教えていただきました。

「やみくもに値段は付けません。原価を計算し、人件費、光熱費なども考慮し、売れ残っても赤字が最小限となる値段を決めます。」

原価計算はスムーズにいったようです。販売の値段の話合いが膨らんだようです。



最終決定に至るまでには、販売時のおつりの計算や接客の態度までさまざまな点から話し合ったようです。

販売は、森の学校さんのBASE 101%で、2月22日の予定です。

今後、商品名や当日の販売数、宣伝方法へと準備を進めていく5年生に期待しています。



森林学習から発信へ

12月19日(月)



月曜日の朝に行う児童朝礼で、4年生がポスターを見せながら、提案をしました。下枠にある学習から、自分たちができる取組とSDG sとの関りの発信です。

西粟倉村がSDG s 未来都市であること、スギやヒノキの人工林のよさ、村内の企業がチームで活動をしていることの大事さなど学習したことを伝えました。「節水と節電」「住みよい村、未来のために環境を大切にしよう」とアピールしました。



2学期は、「SDG s と森のつながり」そして、西粟倉村の「百年の森林構想」について学習した4年生。自分たちが学習した成果を役場総務課の萩原課長にプレゼンを行い、併せて最新の村の取組を教えてくださいました。

ESDとふるさと元気学習



養蜂学習2 5年

6月29日(水)

今日は、東塩谷(美作市)の養蜂場を見学です。皆さんは巣箱の中を直接見たことはありませんか。テレビや本で見た、という方が多いのではないのでしょうか。「うわ～、すげ～」巣板を巣箱から取り出した時の子どもたちの反応です。



メダカ米を調べる 5年

8月31日(水)

「西粟倉の魅力伝えよう」をテーマに、「ふるさと元気食材」について調べています。「メダカ米を調べたい!」と給食でもお世話になっている、井上さんの田んぼでお話を伺いました。ご存じでしたか?メダカ米は、本当にメダカを田んぼに入れて、メダカが住める環境で米を育てているそうです。



本校では、西粟倉の人と自然を題材に、学年のテーマをもって学ぶ「ふるさと元気学習」に取り組んでいます。5年生は、「西粟倉の魅力を伝えよう」をテーマに、養蜂とメダカ米の学びから始まりました。



ミツバチやメダカの住める環境は、西粟倉村の自然環境の豊かさを知ることになり、こうした産業を通して自然環境を守ることの大切さを学びます。

さらに加工した村産のハチミツ、米粉を生かした次のステップが、クッキーの商品開発。

おいしく、喜んで買っていただけるための試行錯誤に取り組みます。味の工夫はもちろん、お店に出すためには、衛生に気を付けること、店頭に出すには賞味期限などの決まりがあることも学びます。

おいしいクッキー 5年

11月17日(木)

「西粟倉の魅力伝えよう」をテーマに、見学した西粟倉村の「はちみつ」と「米粉」を使ったクッキーの商品開発です。今日は2回目の試作。4つの案から、2つにそして1つの案に絞りました。試作品は審査を受け、上位のものに磨きをかけて、さらに良いものを作ろうとしています。完成品は、BASE101%さんのご協力で期間限定、店舗販売です。



クッキーの値段 5年

12月14日(水)

商品をつくり生業とするには、適正な価格を設定しながら、品物の良さも宣伝して購買につながる工夫も必要です。



西粟倉産の米粉とはちみつを使った商品開発に取り組む5年生

17 パートナシップで目標を達成しよう



2月には宣伝をし、店頭販売を経験します。あわくら大学で学習の成果を発信していきます。こうした中で、百年の森林構想から村が自然を生かし、産業を生み出し、住みよい村づくりを進めていることへもつながっています。地域生産者、企業の皆さんの協力があるからこそ、このような学習が進められています。

本校は、ユネスコスクール。ふるさと元気学習には、SDGsの視点を多く含みながら学習(ESD)を進めています。

異学年交流



年間を通じて異学年での活動を意図的に増やしています。少人数を生かして、役割を果たす、関係性をつくる。こうした活動で自分の考えを出せたり、助けを求めたりする力を育むことがねら



いです。さらに広げて、地域の方や他の学校への発信の機会でも人とつながる体験をもっています。



こうした中で、頼り頼られる様子やかかわり方にやさしさを感じ、見ていてもほほえましく感じます。

子どもたちは将来、多くの人とかかわり、協働して社会を切り開いていく。そのための力と心を育みたいのです。

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

